会報
熊本県日中協会
通刊113号
～さらなる友好の絆を～
令和５年
８月発行

≪発行≫
熊本県日中協会
会長 小野 友道
≪事務局≫
〒860-0846
熊本市中央区城東町４－２
熊本ホテルキャッスル2F
Tel 096-356-4847
Fax 096-325-2829

交流拡大さらに支援を

令和５年度総会に52人 総領事や副知事が祝辞

熊本県日中協会の本年度総会が7月5日、熊本市の熊本ホテルキャッスルに律桂軍・中華人民共和国駐福岡総領事らを招き開かれました。会員ら52人が出席。日中国交回復50年、本協会創立50年を記念した前年度行事の報告があり、講演会や懇親会を通じて友好活動の継続・拡大について懇談しました。

熊本ホテルキャッスルで開催された令和5年度総会

議事の冒頭、小野友道会長が、「昨年は日中国交正常化50年、わが協会も創立50年の大きな節目だったが、無事に一連の記念行事ができたことにお礼を申し上げたい」とあいさつ。来賓の木村敬副知事や律桂軍総領事が「熊本と中国は特別な関係を持っている。これまで友好交流に多大な貢献をされてきたことに、心から敬意を表するとともに、交流活動を一層進めよう」と祝辞を述べられました。

このあと、鬼海洋一理事が議長となって、前年度に実施した記念事業「孫文ゆかりの地・荒尾市への留学生バス旅行」「協会創立50周年記念誌の発行」「記念講演会や祝賀会」などの活動が報告され、決算案・監査を全員で承認。本年度の事業計画や予算を決めました。

続いて観光戦略会社・くまもとDMCの磯田淳社長（元県商工観光労働部長）による「新しい観光と交流」と題する講演もありました。【詳細は3ページ】

役員選任では、常任理事に田中敦朗・熊本市議会議長、太田真嗣・NHK熊本放送局長、坂口洋一朗・熊本放送社長、宗田英成・熊本県民テレビ社長。顧問に上田孝・県町村議会議長会長を新任しました。

講演会後には昼食懇親会で会員相互交流

低迷…存在知ってもらう好機

小野友道会長

本日は大雨など悪天候の中、律総領事や木村副知事を迎え総会を開くことができました。昨年は会員の皆さんの絶大な支援で無事に記念行事ができたことに心からお礼を申し上げます。51年目のあらたな一歩として、民間組織として交流の充実に努めたいと思います。コロナ禍などで、交流機会が少なくなり、参加法人や個人の活動が低迷していますが、今こそ存在価値を知ってもらうチャンスととらえ活動を進めていきますので、皆さまの更なるご支援をお願いします。

総会での律桂軍・中華人民共和国駐福岡総領事、木村敬・熊本県副知事のあいさつは次の通り。

さらに高いレベルの交流を

律桂軍総領事

協会の友好交流の地道な努力や多大な貢献に心から敬意を表します。日中平和友好条約45年にあたり、双方ともこれからの関係を総括し展望し、（将来を）考えなければならないと思います。両者はこれまで各分野でそれぞれ急速で重要な発展を遂げ成果を収めてきました。身近に感じられる利益をもたらし、互いの経済・文化面で繁栄してきました。重要で欠かせない安全保障にもつながっています。それは宝物であり大事にしていかなければなりません。

これからの両国の関係を考えるには３つの視点が必要と思います。１つ目として世界は今、気候変動やコロナ禍など１００年に一度の激動の中にあるということ。いろんな困難、変化があっていますが、両国関係だけは安定して不確実性、不安定を減らしていかねばなりません。協力できることはいっぱいあります。２つ目は中国の現代化プロセスの中の日中関係です。中国は２０２１年の共産党１００年の年に次の１００年の目標を立てました。２０４９年に建国１００年を迎えますが、２０３５年には新社会主義国家を実現する中途で、ＧＤＰを倍増させ、中間層人口を４億人から８億人にするというものです。現代化建設を平和的に進めるために、脅威でなく共同繁栄を進めなければなりません。日本はこのチャンスを生かし、互いに協力して、高いレベルで歩んでいきましょう。３つ目は『日米中』は互いの発展を目指すことであって、米国だけの発展ではだめです。「日米同盟」は70年ですが、『日中友好協力・平和友好』は２０００年以上の歴史があります。隣国としてこれからは次世代の友好関係を築かなければなりません。また第三者によって両国関係が傷つけられてはいけません。

青少年の交流大いに期待

木村敬熊本県副知事

昨年は県にとっても広西壮族自治区との友好交流40年の節目でもありました。あらためて協会の長年の交流の深さ、重み、歴史に敬意を表します。今年はコロナ禍も落ち着き、県としては（福岡県が中国との航空定期便が復活させたので）中国への定期便を早く復活させ、最大の貿易相手国・中国と経済貿易交流が進むことを期待します。既に民間の動きは活発になっています。先日は福岡の総領事館の主催で経済貿易交流会が盛大に開かれました。今後、経済だけでなく観光・文化の交流、そして青少年の交流に期待しています。

実際にコロナ禍でも留学生は増えています。６月にくまモンと上海を３年半ぶりに訪れましたが、現地の中学校（１８００人）では半数が日本語を第一外国語で専攻していて、現地のテレビや新聞の報道に大きな期待を感じました。若い人同士の交流を進めたいと思います。もっとアプローチして交流を進め、経済でも熊本で学び、働き、帰国する循環を広げたいと思います。

県は昨年まで叶わなかったことを今年度は確実に進めていきます。その一つは総領事の力もお借りして蒲島知事が広西壮族自治区を訪問する予定です。１００年に向けた一歩を歩んでいくため、県としても友好交流へやらなければならないことがいっぱいあると思います。皆さまにご協力をお願いし、合わせてご健勝をお祈りします。

懇親会でスピーチの皆さん

乾杯の音頭をとる小杉直顧問

田中敦朗熊本市議会議長

松下修二郎熊本市国際課長

原山明博熊本県観光戦略部長

三浦一水顧問

林祥増常任理事

小山和作理事

鄭則賢熊本華僑華人総会副会長

九州日中文化協会の張晶会長（右）と松下文理事

民をもって官を動かし/地方から中央変えよう

新しい観光 地方にチャンス

くまもとDMC磯田社長が講演

磯田 淳 氏

くまもとＤＭＣ・磯田淳社長の講演「新しい観光と交流」要旨は次の通り。

◇ ◇

くまもとＤＭＣは熊本地震後の２０１６年12月に県と肥後銀行が出資してつくった観光戦略会社。観光地じゃない所が観光地になる時代に、農業体験など地域の魅力を生かした稼げる観光地域づくりの実現（経済的な価値創造）を目指している。

観光は、デジタル化やコロナ禍で大きく変わってきている。地域の生活を体験したり、人と交流したりというものに変わろうとしている。新しい観光のキーワードは「本物（を求め）」「（自分自身の）こだわり」「（現地での人との）ふれあい」。そのような観光は、国内においては、その地を訪れるだけでなく、物産を買う、そこにふるさと納税をする、移住定住をするということにつながっていく。また、海外では、国際理解、国際交流につながっていく。まさに日中協会の活動に相通じるような「観光」になっている。

２０１３年に県の国際課長になった時、蒲島県政はくまモンのＰＲと合わせて海外展開を強力に進めていた時期だった。中国もその一つで、広西壮族自治区や福建省との交流を進めた。その一環が北京訪問だったが、当時は両国関係が厳しい時期で九州各県の知事らを誘ったが尻込みされた。上海では経済交流ミッションを展開したが、目指す（本命の）北京は対日戦勝記念の日とかもあり厳しい状況だった。（東大教授だった）知事の北京大学での講義予定もギリギリまで憂慮された。だが、行ってみるとくまモンパワーで大歓迎を受けた。また、この時の日本の大使はくまモンファン。奥様が熊本出身で大いに盛り上がった。続く戦勝記念日の外交部訪問も結局、次官級が和やかに対応し、習近平主席の幼馴染みでもある李小林中国人民対外友好協会長との昼食会も行われた。中日友好協会主催の歓迎会では、王副会長が「民をもって官を動かし、地方から中央を変える」と言われた。国と国が厳しいときであっても、『民』同士や『地方』同士が仲良くすることが互いの関係を良くし、安定につながるのだという話に深く感銘した。

熱心に講演を聞く参加者ら

ここで熊本の観光事情を説明すると、コロナ前の２０１９年で観光消費額は３２２０億円だった。これは県内の基幹産業である半導体や輸送用機器関連の製造品出荷額とほぼ同規模である。こうした中にあって、日本は今、急速な人口減と少子高齢化が深刻であるが、観光交流人口の増大が注目されている。定住人口１人分消費額１３０万円（年）は外国人旅行者８人分、国内旅行者23人分（日帰りだと75人分）にあたる。特にインバウンド観光客の獲得が地域経済にとって大事である。県内の外国人宿泊客は９００万人（２０１８年）がピークで、韓国、台湾、香港、中国が多い。熊本地震やコロナ禍で減ったりしたが、訪日客は急速に戻りつつある。だが出国者数が戻っていない。

「新しい観光」の時代となり、観光客側は多様な選択肢のなか、個人・家族が、好きなもの・こだわりで、本物をありのままに触れたい、祭りなどで地域貢献したい、癒しや自己探求したいと思う。受け入れ側も観光で地域を元気にしたいと考えている。一方でお客様を選び、地域に共感する人、適正な数、地元で消費をする人に、何度も来てほしいと思っている。seeing観光（昭和）からdoing観光（平成）、そしてbeing観光（令和）に変わっている。観光で訪れて「どのような自分でいられるのか（being）が価値となってきている。

日本独特のものは「地方」にこそある。日本政府観光局の調査（２０２２年）では訪日旅行リピーターが多い東アジア、東南アジア市場では「将来、地方エリアに行きたい人」が７割ぐらいいる。「アニメ」「祭り」「ローカルフード」が人気。目的も「ガストロミー・美食」「ハイキング・トレッキング・登山」「サブカルチャー」に移りつつある。安全でリーズナブルな日本へますます人が来る。そして様々な接点が多様化し増える。相互理解を深める機会になるだろう。

国連は１９６７年を「国際観光年」と定めた。その時の標語が「観光は平和へのパスポート」。観光による人と人との交流は、人々の相互理解を深め、平和の礎を築くことができる。また、平和でなければ、観光は盛んにはならない。

熊本で『剣道』修行中

熊本市国際交流員・四川省出身 向璐さん

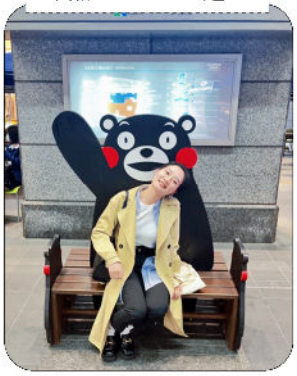
中国カフェで会いましょう

皆様、こんにちは！中国から参りました国際交流員、向璐（コウロ）です。どうぞよろしくお願いします。

熊本のラジオ番組に出演

留学当時、倉敷に旅行

私の出身地は四川省で、可愛いパンダと辛いタンタンメンが有名です。中国の大学で４年間日本語を勉強してその後の３年間は大学院で日本語を通じて日本の文化を勉強しました。日本が大好きです。院生２年の時、交換留学で広島に行き、これをきっかけに剣道を学びました。日本の伝統文化にとても魅力を感じて、もっともっと学びたいなと思いました。これからも剣道の稽古を続けたいと思います。剣道が好きな方がいれば、ぜひコツを教えてくださいね。

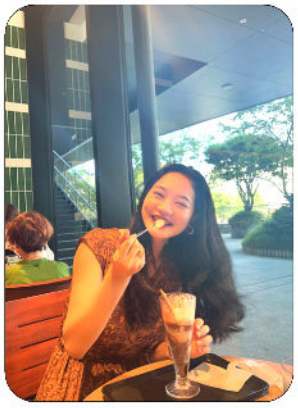

来熊まもなく上通で

熊本に来るのは初めてですが、皆さんいい人ばかりでよかったなと思います。

恥ずかしながら、私の志を皆さんにシェアしたいと思います。

もう一度日本に戻って来てやりたかったことは三つあります。一つ目は中国の文化を多くの日本の方に知っていただくこと、二つは日本の文化をもっと体験して、その魅力を中国の方に伝えること、三つは剣道の稽古を続けることです。自分一人の力でできそうもないことばかりですが、熊本に来てから今まで、周りの優しい皆さんがどんな時でもいつでも支えてくれて応援してくれるので、志に一歩一歩近づいていくような気がします。現在、毎週土曜日剣道の稽古をしています。熊本の市民の皆様が興味を持てるような中国文化を一緒に楽しく学べるように頑張っていきたいと思います。ぜひ国際交流会館の中国カフェで意見交換しましょう。また、中国の方の生活でのお困りごとやご質問、相談したいことがありましたら、どうぞお気軽に「中国相談」（毎週火曜日、国際交流会館）にいらしゃってくださいね。

毎月１回開催している中国カフェで市民の皆様に中国文化を紹介


サクラマチクマモトでの週末

日本語の「一期一会」という言葉が大好きです。熊本での仕事と生活を大切に、毎日満喫しています。皆様との出会いを楽しみにしています！（原文のまま）

水前寺成趣園にて

編集後記

テレビや新聞で連日、全国各地の猛暑の様子が伝えられています。「気象」は今、最も ニュースバリューのある時事ネタ。時間やスペースを割いて大きく報じられています。職場や家庭でも関心が高まり、〝にわか気象予報士〟が増えてきたようです。「気候変動」「温暖化」「線状降水帯」「内水氾濫」…。あいさつ代わりに気象用語が飛び交います。▽異常気象は40年ほど前から指摘されていました。ここ数年のレベルほどではありませんでしたが、駆け出しの記者時代、取材先の気象台で「平均気温が１～２度上がれば地球環境は大変なことになる」と言われ、そのまま原稿に書くと、それをチェックした上司のデスクから「（わずか１度で）変動はあり得ない。ウソを書くな！」とこっ酷く怒られました。それが今、現実となっているわけです。▽暑さもそうですが、これからは台風シーズンでもあります。ニュースの進路予想図を見ながら、最近は「お隣の中国、韓国はどうなの」と気になるようになりました。

（機関紙編集委員　木村圭一郎）